

## 特別支援教育講演会 (Zoom によるオンライン講演会) 報告書

日 時	2020 年 11 月 21 日(土) 10:00～12:00
研 修 名	「特別支援教育研修会」
研修の目的	特別支援教育で通常学級にいる気になる子供の関わり方に焦点を当て、その子供達を輝かせる学級経営のポイントや授業改善のヒントとについて研修を深める。
テ ー マ	発達につまづきのある子どもを輝かせる学級経営と授業改善 ～通常学級で気になる子どもへの関わり方～ Part2
講 師 名	川上 康則先生 (東京都立矢口特別支援学校 主任教諭)
会場・場所	Zoom によるオンライン研修
研修内容	<p>1. 関わりの糸口を見いだすのが難しい子への関わり方・指導のポイント</p> <p>2. ワンランク上の子供理解と関わり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・甘くか、厳しくか、許すか、譲らないかという二項対立に陥らない。</li> <li>・子供の幸せスイッチを押そう。</li> <li>・子供の平等にみてほしいという気持ちを忘れない!</li> <li>・当事者視点を忘れずに・・・</li> <li>・二次障害に至るプロセスを知り、将来を支えよう。</li> <li>・二次障害は身近で目立たないまま進む</li> <li>・援助要求スキルを教えることで問題行動を減らす。</li> <li>・安心して解らないと言えるクラスをつくろう。</li> <li>・編集日々の感謝を大切に!</li> <li>・ルールに従わせるより「信頼」を大切にしよう。</li> <li>・子供達の安全基地でいよう。</li> <li>・「やり方」を求める前に「在り方」を見直そう。</li> </ul>
成果／活用策	<p>○子どもにも「トライ&amp;エラー」を保証するという点で、失敗や下手なことも楽しめる空気をつくれるようにしたいと思いました。そして大人の側も期待値を下げ、心に余裕をもっていくことを心掛けたいと感じました。</p> <p>○特別支援的な目線では「支援が必要だ!」と子どもに目を向けがちだけれど、実は褒める行為が褒めた側にもたらす効果にもあるように、大人の側が気づかされることが大きいという話は納得させられました。ほめポイントも大変参考になりました。子どもの伸びしろを見つけて伝えられる教師でありたいと心から思いました。</p> <p>○特別支援学級の担任をしています。いつも「これでいいのかな、どんな対応をしたら良いのか」と自問自答したり、手探りの状態で過ごしたりしていました。色々な行動パターンの児童やその対応策を具体的に教えてもらい、火曜日から接し方や声かけの仕方を変えてみようと思いました。○特別支援教育について学校全体に研修をしてほしいと感じました。</p> <p>○地区新人大会に近い時期なので、もう少し早く開催してもいいのではと思います。ぜひ、より多くの先生方に話しを聞いてもらいたいと思います。</p> <p>○最先端の方々のお話しでとても勉強になります。今後もよろしくお願いします。</p> <p>○「なぜ上手くいかないのか」よりも「どうして上手くいったか」を考えることが糸口になるというのは目からウロコで、早速生かしていきたい。</p> <p>○「自尊感情が高まる→援助を求めることができる」ということを肝に命じて、子ども達の援助要求スキルを高めるための支援、伝授に努めたい。</p>

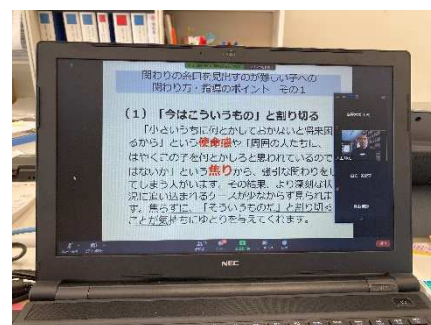
北部教育研修センター

**発達につまづきのある子どもを  
輝かせる学級経営と授業改善**  
～通常学級で気になる子どもへの関わり方～

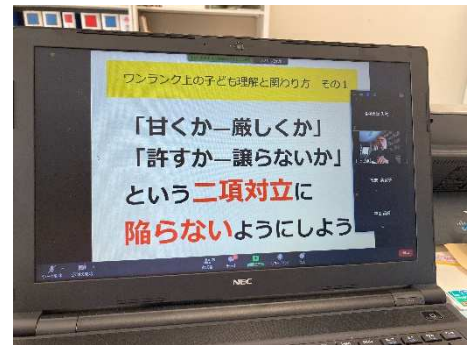
東京都立矢口特別支援学校  
川上 康則

(公認心理師/臨床発達心理士/特別支援教育士SV)

- 今回の講演会で得た活用策について、2項対立（認めて受け入れる⇔認めない・許さない）は、1～99の間で成長を見守りつつ支援に携わることを心掛けていきたいと感じました。
- 子ども達にもトライ&エラーを保証するという内容に、失敗しても取り返せる場面を創ってあげることが大切でチャンスがたくさん創りたい。
- 安心して「わからない」と言える教室づくりは、もしクラスや教科を受け持つ場合には活用したい。
- 気になる子を気にしすぎないように心を配りながら支援をしていきたい。「困難さの状態に対する工夫、配慮の意図プラス手立て」、子どもにより困難さの状態が違い、どう支援すべきかを学ぶことができてよかった。
- 児童理解について、具体的な方法等がすぐに活用できることが多く、非常に勉強になった。
- 中学校の学習支援員である自分は、「生徒のことを大切に思っている」や「感謝している」ことを生徒に直接伝えていきたいです。また、生徒に”強い圧と弱圧”をかけないように注意していきたい。
- ネガティブ感情の語彙力の乏しさが、感情・行動力に表われることを知りました。生徒が伝えたい事が分からなかった場合は、確認しながら気持ちを汲み取り、言語化し、話をしていこうと思います。
- 学習支援員という立場上、学力の低い生徒に接することが多いのですが、声掛けの仕方や内容について悩むことがありました。「先生はできると思っているよ」、「だからやってみよう」と伝えたりもしますが、時には焦ったり、疲れてしまうこともあります。今回の研修で学んだ「変わる子にしか声を掛けません」、「一人一人の伸びしろをほめる」という言葉と「1～99の間で折り合いをつける」ことを取り入れて、声掛けの言葉を変えてみようと思います。
- 指導者の成長ステージが提示され、自分の位置を確認することができただけでなく、どのような方向性へ進めば良いか見通しができた。今回も意識の持ち方や対応の仕方が分かりやすく具体的に示され、これまでの指導・支援を振り返ることができ、また、今後のヒントを得ることができました。
- 生徒との関わり方を改めて振り返る時間となりました。また、本校での生徒を思い浮かべながら先生方の関わり方を再確認できました。講話していただいた内容を伝え、子ども達に生かしていけるよう考えていきたいです。
- やり方だけを求めるのではなく、教師としてのあり方が問われていると思いました。そのためには、子どもの状態を捉える力、支援の手立てを知っていること、信頼関係を築いていること等が必要だと思いました。子どもの責任、努力不足などと押し付けるのではなく教師としてのあり方、教師自身が学び続けていくことが大切であると思いました。
- 「子ども達が早期に援助要求スキルを身に付けるので、将来を支えることができる」ということが大切であることを学びました。「泣く、騒ぐ、にげる」等の行動ではなく「手伝ってください」、「わからないので教えてください」等のおすすめコースの行動がとれる子どもに成長できるように支援していきたいです。



- 先手を打つ（事前に伝えてチャンスを待つ）。1打席目からヒットをねらいに行かず「2割5分」を目指す。気になる子と気にしすぎる子を先に支援する。援助要求スキルの指導。で何をすればいいのかわかりやすかったです。前記の内容を心がけていきたいと思います。
- 脳のつくりから考えて子どもへのアプローチの仕方を考えることができてよかった。子どもへの声かけや対応の仕方を考えることができてよかった。当事者視点と3つのタイを日々考えていきたいと感じた。
- 集団で活動できない子や暴言を吐く子、「なんで俺だけ」と言う子がいます。今日の内容をもう一度見直して、出来そうなことから実践していこうと思います。
- 圧の自覚的レベル（自分の圧を自覚して、調整できるようにしたい。安心・安全な教室、学校を目指し、子どもたちと向き合っていきたい。
- 自分自身が持つ期待値を下げ、生徒自身が自尊感情を持っていけるよう、ゆっくり粘り強く関わっていきたい。
- 子どもと1～9の間で折り合いをつける。こだわりを家族やクラス全体にとって役に立つ活動にする。圧の自覚的レベル。を得た。
- 具体的な例えなどとてもわかりやすく、あっという間の時間でした。「ODD」や「CD」など初めて聞く専門用語も出てきましたが、言葉だけが一人歩きしないようにしっかりと勉強して理解し、活用していきたいと思いました。
- 具体的な例えなどとてもわかりやすく、あっという間の時間でした。「ODD」や「CD」など初めて聞く専門用語も出てきましたが、言葉だけが一人歩きしないようにしっかりと勉強して理解し、活用していきたいと思いました。
- 「一人一人ののびしろをほめる」を忘れずに日々の生徒対応をしていきたいです。

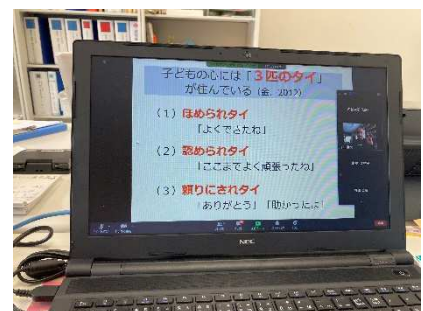


感想／要望

- すべて印象的でした。理解しやすく、内容がより具体的に入ってくるものばかりで参考になりました。これまで教師として子ども達に向き合っていたことが果たして何処まで通用するものだったのか、こんな関わり方、やり方は見直さないといけない。あり方に目を向けて行こうという気持ちになりました。子ども達以前に、実は教師の方が子どもとの向き合い方に戸惑ったり、やり方を求めてばかりで進んでいけないことの方が多いいことを再認識しました。
- これまで、どれだけ「当事者視点」をもって子ども達と接してきたのだろうか、子どもの困り感へアプローチをする時は、やはりその子へのまなざしや目線が大切で、そこが特別支援の原点なんだと改めて実感しました。（いつでも原点に立ち返って特別支援教育を考える教師でありたいと思います。
- 子どもの行動だけでなく、その裏にある背景や心をきちんと見取れる、理解してあげられるような大人になりたいと研修のあいだ中思っていました。一人一人に愛情をもち、困難を見逃さないこと、工夫や手立てを組み立て、一人一人ののびしろを見つけ認めてあげることで、そして、毎日たくさんの「ありがとう」を伝えることを意識して、これから頑張っていきます。たくさんの刺激を与えてくださりありがとうございました。
- 「”気になる子”を気にしすぎる子”への支援という視点にハッとしました。今まさ

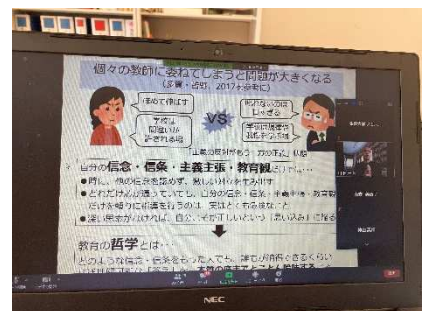
に直面しているニーズで、どの子どもも多かれ少なかれ不安や苦手があって、安全基地を必要としていることを忘れないようにしなければ……。支援員こそ、安全基地でなくてはならないなあ（そうありがたい、なれているか……）と自分を振り返る研修でした。ありがとうございました。

- 今回の講演会で印象に残ったことは、先生自身も児童・生徒を頼りながら信頼関係を築けることの大切さを学びました。また、学校の先生という立場から児童、生徒へ意図していない時に圧がかかっていないか反省する点が見つかりました。
- 講演会では意識して「私だったら」という気持ちを持って聞きたい。少しの考えや言葉遣いを変えることで、生徒が変われるチャンスをつくってあげることができるというのが、色々なスライドで学ぶことができた。少しずつ実践して楽しみながら生徒と関わっていききたいと強く思いました。
- 学びが足りない状態で一生懸命に教師が頑張ることで、児童を追いつめることがあるということを知ることができたことが何より大きいです。学び続けていきたいと思いました。
- 教育の世界では、打率2割5分で十分であるという言葉が一番の印象に残りました。今までは、打率10割でないといけない自分がいましたが、これからは気楽にして生徒と接していきたいと思います。
- 二次障害について、プロセスや「すごいこと」をする事で心のバランスを保つようになる。学習障害の生徒が、授業中ずっと過度なストレスを感じていることを理解しました。
- すごく勉強になった2時間でした。特別支援や教育現場にいる、いないに関わらず、日常生活・人間関係に生かせるものがたくさんありました。「打率2割5分」を生徒に対してだけではなく、自分にもその意識を向けてみようと思いました。そうすることで、もっとこころの余裕ができ、いい形で仕事ができると感じました。
- 人（特別な支援を要する方も含め）はみんな平等に扱われることに敏感。二次障害は、ものすごく身近で目立たないまま進む。援助要求スキルを教え、問題行動を減らす。ルールに従わせるよりも信頼を。が印象に残りました。
- 講話の中でたくさんのことを学ぶ機会となりました。すべてが印象に残っています。子どもとの信頼、心の内面を想像する力、待つ勇氣、安心できる学校や大人としての存在、そんな教師集団でありたいと感じました。私たちの関わり方で変わる、成長できる子ども達がいることを自覚しながら今後も先生方と関わり、共に頑張っていきたい。
- 特に印象に残ったこととしては、教師の吹かせている「風」の例えです。多忙さに流され、教師自身も気づかないまま「鋭い風」等を吹かせてしまい、子ども達を困惑させていると思いました。また、教師の「圧」の調整のお話はとても納得できるものです。強すぎても被支配的な学級経営になるし、弱すぎてもおとし行動を助長したりして、学級崩壊に繋がりがかねないでしょう。学級の子どもの状態を読み、「圧」の調整ができる教師が学級経営の上手い教師なのだと思います。
- 川上先生のご講話を拝聴するのは、今回で3回目ですが、毎年「教師としてどうありたいのか」を再確認できる機会になっています。クラス内、職



員室内を「監視社会」にするのではなく、お互いの困り感を安心して開示し、援助してもらえる学校づくりを職員、子どもと共に頑張っていきたいです。

- 印象に残った言葉は多々ありましたが、特に印象深かったのは「子どもたちの安全基地でいよう」、「教室内に不用意に吹かせている（風）を自覚しよう」、「熱心な無理解者にならないようにしよう」です。心に留めて、意識しながら日々子どもたちに関わっていきたいと思います。
- 今回の研修も非常に参考になり、心がスッと軽くなる研修でした。使命感から子どもにきつくなってしまわないようにゼロと100の間で見守ることを実践していきたいと思います。ぜひ来年も受けさせてください。
- アンケートや自分のいい所探しで、「ない」と答える子も何人かいて、今日の講演を聞いてとてもしっくりきたので、もっと認めたり、褒めたりしたいし、周りの先生方も巻き込んでできたらいいなと感じた。いい所をみつけたり、声かけの仕方について一つ一つの言葉をチャンスと捉えて頑張りたい。
- 「こんな子いる！」と思う話がたくさんありました。「圧の調整」が一番印象に残りました。ありがとうございました。
- 当事者視点が印象に残りました。生徒それぞれに困っている事は様々なので生徒の気持ちに寄り添い、一緒に頑張っていこうという姿勢で取り組んで行こうと思いました。
- 子どもと折り合いをつけながら信頼関係づくりをしていきたいと思います。援助要求スキルを教え、問題行動や困り感を少しでも減らすことができるように支援していきたいです。
- 講演会、途中で体を動かす活動を入れ、楽しみながらの講演会でした。講師の先生も話し方が丁寧で、ゆっくりで分かりやすく、パワーポイントも見やすく理解が深まりました。何となく感じていた教室内に吹く「風」や先生の「圧」など、自分を見つめ直すことになりました。
- 「自分が認めた大人」、「自分のことをわかってくれる大人」の言うことはよく聞く。ルールに従わせることよりも「信頼」を大切にしよう。今の自校にとって大切な言葉だと思いました。
- 「プロでも3割打てれば一流」を思い出しながら、焦らず関わりを続ける。関わる大人達にこの言葉が共通理解できるとな嬉しい。
- このようなスペシャルな講師を呼んでくださり、教職の質の向上のためにご尽力くださってる北部教育研修センターのスタッフの方々へ感謝いたします。今回のような講演は、本当にすべての教師に聞いてもらいたい内容でした。働き方改革などで休日は厳しいという教員も多いとは思いますが、でもやっぱり教師として生きていく以上、ここでの学びは大きいと思います。職場でも私の呼びかけが弱かったのかなと思いますが、今回の研修内容での学びを他の職員へ伝えたいと思います。
- 今回、休日の（オンライン研修）実施ということで、私のようなパートタイムの支援員も受けることができ、とてもありがたかったです。今後も支援員が参加できる研修や講演会が増えることを希望します。
- 今後の研修への要望についてですが、今回のよう



にオンラインで講演が聞けたことはとても貴重な機会となりました。今後もこのような機会を設けていただけると勉強になります。ありがとうございました。

- 一学期始業前の4月に講演を聞けることができれば良かった。
- オンライン研修も良いが、やはり先生と直接に会って講義が聞きたいので、できればケーススタディ形式の研修会を開いていただくことが要望です。
- 特別支援学級の生徒への教材作りの工夫などがありましたら参考にしたい。
- 素晴らしい講演を企画してくださってありがとうございました。
- 校内研修や市町村研修との連携。研修定例日の設定（例：毎月第2・4火曜日の15:00～17:00）。研修期間を設定したり、研修後に視聴できたりするオンデマンド研修の実施検討。リモート研修の実施拡大。が希望です。
- 川上先生のお話を聞くのは2回目ですが、今回ももっとたくさんの先生方へ聞いてほしいと思いました。本校は離島校なので、なかなか自主研修へ出かけることが難しいため、今回のリモート研修はとても良かったです。無理を言えば、平日の15:00以降なら校内研として全職員で見れたのですが・・・。
- Zoomだと遠方からでも参加できるのでありがたいです。
- 今後も、毎年、川上先生のご講話を拝聴していきたいです。どうぞよろしく願います。
- 毎年実施してほしい研修です。特別支援の視点はとても大切なのですが、「わかった気」になってしまいがちです。原点に戻るためにも毎年聞きたいです。
- 特別の支援を行なう際の周りの子どもたちの理解についても学びたいと思いました。忙しい中での開催をありがとうございました。
- この研修はとても良かったので、今後も機会があれば、他の先生方にもおすすめしたいです。ぜひ、また願います。
- とても分かりやすく勉強になりました。全職員で聞きたかったです。どの教室・学校にもいる（あてはまる）子が想像でき、考えながら講話を聞きました。ぜひ、また川上先生に研修をしてもらえるように願います。
- 特別支援教育について学校全体に研修をしてほしいと感じました。
- 地区新人大会に近い時期なので、もう少し早く開催してもいいのではと思います。ぜひ、より多くの先生方に話しを聞いてもらいたいと思います。
- 最先端の方々のお話しでとても勉強になります。今後もよろしく願います。
- 特別支援教育を進めていく上で、とても勇気を貰える内容でした。ありがとうございました。
- ぜひ、次回はZoomではなく全職員で直に先生のお話しをお聴きしたいです。

<アンケートの結果>

目標参加者数	100 人	参加者	62 人	参加率 62% 参加率=目標参加数÷参加数
アンケート回収数	24 件	回収率	40.3%	回収率=回収数÷参加者数 (%)

アンケート項目	評価 4		評価 3	
	研修の時間について	適当であった	20 人(83.3%)	まあまあ適切であった
興味を引く研修内容か	非常に良かった	24 人(100%)	良かった	0 人(0%)
今後の教育活動に活か せそうですか	非常に活かそう	24 人(100%)	まあまあ活かそう	0 人(0%)

※評価 2、評価 1 は極少数であった。